

深野康彦の 先取り経済NEWS!!

編集・発行 株式会社 アサヒ・ビジネスセンター 2021年5月14日

今月のトピックス 「2度目の景気後退は人災の色合いが強い？」

前 回のコラムで「株価の上昇はバブルなのか？」を述べると記したものの、3回目緊急事態宣言で景気後退が不可避と思われることから、今回は景気予測をしてみたいと思います。株式の件は次回に述べますが、先に筆者の見方を述べておくと株価はバブルではないと考えています。2021年のGW前に一部都府県では3度目の緊急事態宣言が出されたことから、にわかにコロナ禍の2回目の景気後退が現実的となりつつあります。景気後退、別名「リセッション」とも呼ばれる景気状況は、各国により違いがあるものの、欧米では一般的に国内総生産(GDP)が2四半期連続でマイナスになった状態と定義しています。

2021年1~3月期のGDP速報値は、年初に発出された2回目の緊急事態宣言の影響を受け、個人消費を中心に内需が落ち込んだことが主因で、実質GDPは各シンクタンクがマイナスになると予想しています。その後4~6月期は景気が回復すると同様のシンクタンクが予想していますが、3回目の緊急事態宣言の発出、まん延防止等重点措置(通称、以下「まん防」という)の発出は想定外の出来事になっています。緊急事態宣言こそ適用範囲は広がっていないものの、まん防の適用範囲はどんどん広がりを見せており、当初ダメージはGWを含めた前後と思われていたものが、5月末まで延長、場合によっては6月まで延長される可能性も否定できません。下手をすれば緊急事態宣言の適用範囲も広がるかもしれません。日本是世界から見れば相対的に感染者や死亡者が少なく、ロックダウンを実施した国からは「奇跡」と賞賛されていたのが、一転して無能な国の烙印を押されかねない雰囲気になりつつある気がしてなりません。その要因は聞き飽きているかもしれませんが、決められない政治と科学的知見を政策判断に活かすことができない政治に行き着くのでしょうか。極端な言い方をすれば「平和ボケした日本」と述べた方がよいのかも知れません。

新型コロナという疫病が蔓延しているのに、政府の対応は小出しに逐次投入を繰り返し、あげくの果てに緊急時にもかかわらず(コロナの終息すら見えないのに)国の財政懸念を御旗にして給付金を絞ろうとする等々、人の命よりも国の財政が大事という政策遂行を行っているのですから開いた口が塞がりません。ワクチン接種だって遅々として進まず、予約を開始すればサーバーダウンする自治体が続出です。法的に私権に踏み込めないのは理解できますが、だからこそ首相が責任を持って国民を説得すればよいのです。もちろん、この国の政治家にそこまで胆力が備わっている政治家がいるとは思いませんが・・・民間は血の滲む努力をしてあえいでいるのに官僚や公務員は体たらく。頑張っている人もいるので、十把一絡げにまとめてしまうのは良くありませんが、仮に2四半期連続してGDPがマイナスとなれば筆者は人災と思えてならないのです。いくら民間がコロナ禍であえいでも、官僚や公務員は自身の給料が下がることはないのですから、民間がどんなに危機感を持っても無駄なのかも知れません(政府を当てにしないに尽きるかも)。もしかしたら民間の苦悩なんて他人事なのではないでしょうか?自分自身で稼ぐ(売り上げを作る)ことをしないと効率や物事の優先順位は身に付かないのかも知れません。今回はちょっと言いすぎたでしょうか・・・